

個別支援会議分析報告書 (平成 22 年)

取上げた 53 事例の生活機能と背景因子についての分析

**一宮市障害者自立支援協議会
運営会議**

1 分析の目的

個別支援会議で取り上げられた事例について、取り上げられるに至った個々の要因や背景を多角的に明らかにするとともに、その結果から、各事例に共通する傾向や特徴を抽出し、一宮市における今後の地域支援の方向性を考察し、自立支援協議会における部会設置のための基礎資料とする。

2 対象

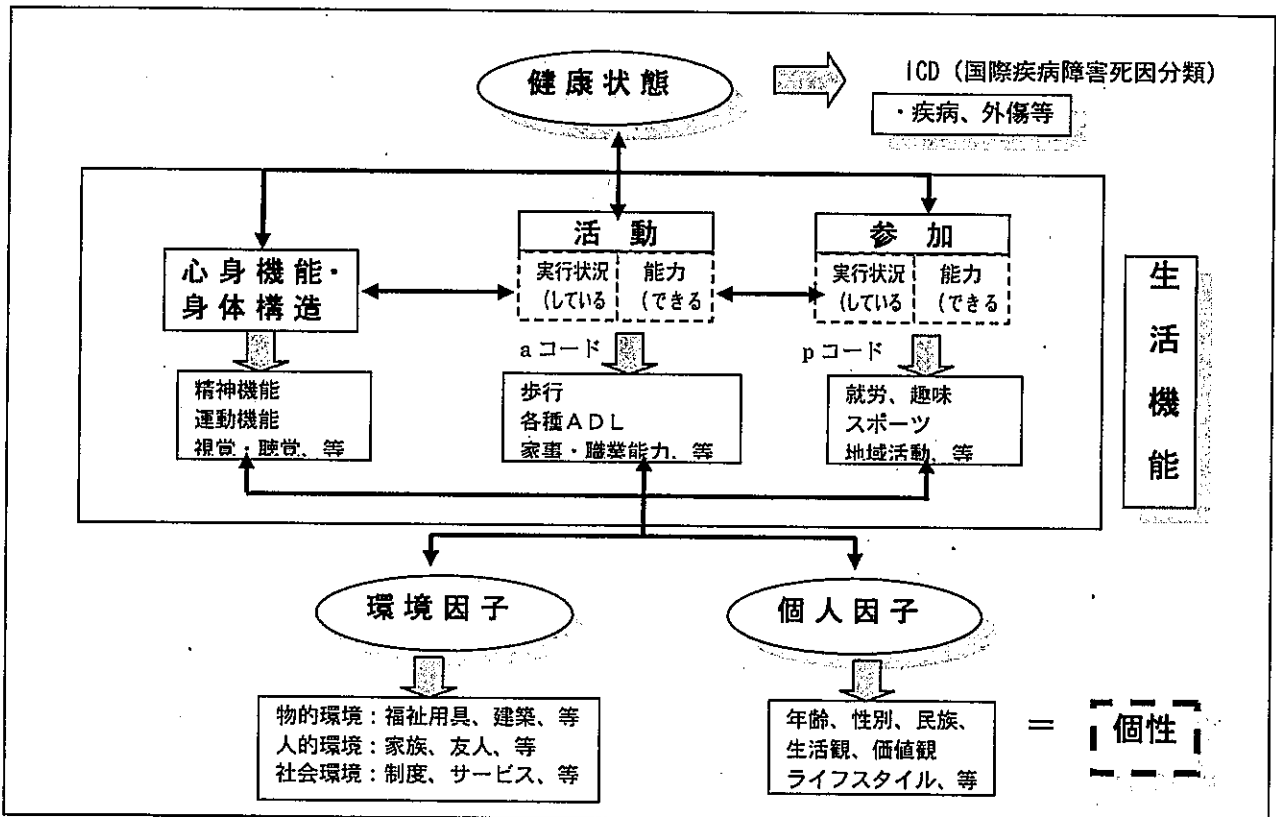
平成 22 年 1 月から平成 22 年 12 月中に個別支援会議で取り上げられた 53 事例。

3 分析の方法

今後継続的に利用できる資料とするため、統一的な分析方法を用いてデータベース化する。具体的には、国際生活機能分類（ICF：International Classification of Functioning）の基本的な考え方である「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」の3つの構成要素からなる「生活機能」と、それらに影響を及ぼす「背景因子」を「環境因子」並びに「個人因子」の各項目ごとに分析を行うものとする。ただし、今回は評価点基準を用いた評価は行わず、記述による評価を中心に実施する。

ICF 概念図（図 1）を基にした現状分析表を全事例（表 1～表 53）について作成する。さらに、各項目ごとに分析項目別全事例一覧表（表 54～表 63）を作成する。作成した表 1～表 63 の内容を比較検討し、共通する評価点や課題を抽出するほか、今後の一宮市の福祉施策の推進に参考となる事項等についても明らかにする。

図 1 ICF 概念図（具体例が入ったもの）



出典：生活機能分類の活用に向けて（案） 厚生労働省大臣官房統計情報部 2007.3 円谷一部改変

4 分析の時期と実施者

平成23年3月から平成23年5月末日までに、地域自立支援協議会運営会議において選出された者が事務局と調整のうえ実施する。

5 分析結果の活用方法

分析結果を地域関係者に還元し、対象事例の地域支援に役立てるとともに、地域自立支援協議会に設置する部会の協議内容の選定に役立てる。

6 対象35事例の概要

(1) 地区別

地区	宮西	貴船	大志	向山	神山	富士	西成	丹阿	大和	千原町	尾西	萩原町	奥町	木曾川	北方	栗栗	浅井	伊勢
人数	3	1	0	3	0	1	4	3	7	3	9	2	4	2	2	2	6	1

(2) 性別・年齢別

区分	0~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~
男	1	2	3	10	0	4	2	0	1	2	2	2	1	1
女	2	0	0	5	0	2	1	1	0	6	2	1	1	1

(参考) 全体の平均年齢：30.8歳 男：28.1歳 女：34.9歳

(3) 性別・障害別

	身体	知的	精神	その他
男	3	26	3	3
女	0	9	7	2

(注) 障害が重複している場合は主たる障害で分類

(4) 性別・家族(両親)の状況

	両親有	片親有	単身	その他
男	19	8	3	3
女	5	6	5	4

7 個別支援会議検討事例の概要

年齢	性別	障害種別	開催日	定例・ 回易	本人	家族	出席関係				その他	検討事項	結果		
							相談 支援	障害福祉サービス受給状況						その他	
								相談 支援	障害 福祉 サービス	障害 福祉 サービス					その他
2133	58	男	知的	1月6日	定例	本人 欠席 (当日 拒否)	—	—	—	—	—	—	—	今後の生活を立て直しのために日中活動および金銭管理について検討	本人との関係を改善することと同時に適切な飲食代使用ができるように店側とコンタクトをとるため検討を考へる
2134	57	女	知的	1月21日	定例	—	—	—	—	—	—	—	—	通所部分のサービス切りの整理は来月より、スケジュール表など本人へ提示する。相談支援により調整	通所部分のサービス切りの整理は来月より、スケジュール表など本人へ提示する。相談支援により調整
2135	37	女	知的	1月29日	定例	—	—	—	—	—	—	—	—	家族と支援者での連絡を良くし、本人の訴えを受け止めつつ生活面の改善を図る	家族と支援者での連絡を良くし、本人の訴えを受け止めつつ生活面の改善を図る
2136	9 5	男	知的 発達	2月3日	定例	—	—	—	—	—	—	—	—	父との適切な距離を保つために福祉サービスを利用することや、文の要修動機、母の相談先などについて支援方針を共有	父との適切な距離を保つために福祉サービスを利用することや、文の要修動機、母の相談先などについて支援方針を共有
2137	28	男	身体・知的	2月17日	定例	—	—	—	—	—	—	—	—	会費での後継を先週と通所サービスの利用について具体的な予定表を相談支援で作成し母・本人に提示、検討してもらう	会費での後継を先週と通所サービスの利用について具体的な予定表を相談支援で作成し母・本人に提示、検討してもらう
2138	3	女	知的	2月5日	回易	—	—	—	—	—	—	—	—	窓口は保健所として関係、相談支援等で役割分担をし、一家の支援にあたる	窓口は保健所として関係、相談支援等で役割分担をし、一家の支援にあたる
2139	18	男	身体・知的	2月22日	定例	—	—	—	—	—	—	—	—	本人の通所先の見学や相談支援、一家の生活費や、難病した父への緊急的な支援について相談を検討した	本人の通所先の見学や相談支援、一家の生活費や、難病した父への緊急的な支援について相談を検討した
2140	24	男	療育	2月25日	定例	—	—	—	—	—	—	—	—	家庭以外では落ちついて過ごしている、同様に本人が過ごせるよう、通所先事業所が家族への支援を行う	家庭以外では落ちついて過ごしている、同様に本人が過ごせるよう、通所先事業所が家族への支援を行う
2141	42	男	発達	2月26日	定例	—	—	—	—	—	—	—	—	発達障害のある本人への適切な対応や、無理なく活動できる環境の設定等を行う。母の難病完治としては兄弟や成年で対応	発達障害のある本人への適切な対応や、無理なく活動できる環境の設定等を行う。母の難病完治としては兄弟や成年で対応
2142	48	女	精神	2月22日	回易	—	—	—	—	—	—	—	—	保護者の支給の仕方を検討し、緊急時に備え予備費を作成することや、関係者の連絡先を整理すること、必要に即し制度を利用すること等を関係者で確認	保護者の支給の仕方を検討し、緊急時に備え予備費を作成することや、関係者の連絡先を整理すること、必要に即し制度を利用すること等を関係者で確認
2143	45	女	精神	2月1日	定例	—	—	—	—	—	—	—	—	相談先の協定と支援に協力を促すことにより、関係者で統一した支援を確保していきようとする	相談先の協定と支援に協力を促すことにより、関係者で統一した支援を確保していきようとする
2144	10	男	療育	3月4日	定例	—	—	—	—	—	—	—	—	コーデイネーターを決定し、支援方針を統一することが出来た	コーデイネーターを決定し、支援方針を統一することが出来た
2145	3	男	重心	3月17日	定例	—	—	—	—	—	—	—	—	通所後のことも考慮した対応を関係者で共有し、共通理解のもと母子支援を行う	通所後のことも考慮した対応を関係者で共有し、共通理解のもと母子支援を行う
2146	12	男	知的	3月18日	定例	—	—	—	—	—	—	—	—	パニック時の対応について関係者間での対応を統一	パニック時の対応について関係者間での対応を統一
2147	32	男	療育	3月31日	定例	—	—	—	—	—	—	—	—	通所先での基本的な生活費や金銭管理などの指導を受け継続的にサポートして本人の希望する生活が出来るように支援	通所先での基本的な生活費や金銭管理などの指導を受け継続的にサポートして本人の希望する生活が出来るように支援

資料 1

8 ICFを基にした現状分析表 (表1～表53)



表2 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 57	地域: 今伊勢	国籍等: 日本	IDNo.2134
疾病1		疾病2	疾病3	外傷1	外傷2
疾病1		疾病2	疾病3	外傷1	外傷2
精神発達遅滞	脳出血	脳出血	高血圧	-	内科往診
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
活動	中度知的障害、相手の話は一通り理解できている	歩行	問題なし	言語障害があるが聞き取れる範囲	その他
生活機能	実行状況(している)	不安定だが一人で可	ADL	職業能力	その他
参加	能力(できる)	可	排泄など一部介助	過去に就労経験があるが、現在はなし	-
環境因子	実行状況(している)	一般就労・就学	排泄など一部介助	おそらく不可	-
背景因子	能力(できる)	利用している福祉用具	福祉施設等の利用	趣味等	その他
環境因子	物的環境	-	介護保険デイサービス	カラオケ(喫茶店の店主と共にカラオケボックスに行く)	不明
背景因子	人的環境	家族の支援	息子あり。積極的ではないが支援あり	口には出さないがやりたい事がある	不明
環境因子	社会的環境	利用している制度	療育日、生活保護	あれば利用したい福祉用具	その他の特筆すべき物的環境
背景因子	個人因子	(生活観)実現したい生活	今のままの暮らし	杖や車椅子は拒否	住宅は老朽化している
会議参加者	本人	参加状況	本人	集合住宅(賃貸)	住宅は老朽化している
会議参加者	参加	参加状況	参加	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
会議参加者	参加	参加状況	参加	近隣との交流・支援	喫茶店の店主がこくたくまにカラオケに連れて行ってくれる
会議参加者	参加	参加状況	参加	利用している公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス
会議参加者	参加	参加状況	参加	介護保険デイサービス(基準該当生活介護。居宅介護)	不明
会議参加者	参加	参加状況	参加	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
会議参加者	参加	参加状況	参加	寝タバコあり	-
会議参加者	参加	参加状況	参加	医療関係者	福祉関係者
会議参加者	参加	参加状況	参加	保健関係者	介護保険デイサービス、ケアマネージャー、基準該当生活介護、居宅介護、相談支援、福祉課(生活保護、障害)
会議参加者	参加	参加状況	参加	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望
会議参加者	参加	参加状況	参加	介護保険から障害福祉サービスへの移行に伴い、ケースの引継ぎが行われた。本人の希望には沿わない結果であり、制度上やむを得ない形となった。介護保険と障害福祉サービスの連続性の確保が課題となる。	介護保険から障害福祉サービスへの移行に伴い、ケースの引継ぎが行われた。本人の希望には沿わない結果であり、制度上やむを得ない形となった。介護保険と障害福祉サービスの連続性の確保が課題となる。

表3 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:女		年齢:37	地域:大和	国籍等:日本	IDNo.2135	平成22年1月29日現在
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他	精神科に通院、服薬中
精神発達遅滞	統合失調症	-	-	-	-	その他
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	-	その他
	中度的知的障害があり気分 にムラがあり	問題なし	問題なし	-	-	-
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	兄により金銭管理
生活機能	可	自立 整容は不十分	妹が行い本人はほとんど 行わない	就労移行を利用	不安定さはあるが可能	自己では浪費気味
	可	自立	家事全般できる	地域活動	不安定さはあるが可能	自己では浪費気味
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	民間支援団体の活動に参 加	不明	不明
	-	就労移行支援	友人とカラオケに行く	不明	不明	不明
環境因子	支援があれば可能	不安定さはあるが可能	友人とカラオケに行く	集合住宅(賃貸)	不明	不明
	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	その他の特筆すべき物的環境
	-	-	-	近隣との交流・支援	-	-
人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
	兄、知的障害のある妹、息子と同 居。本人の気ままな過ごし方に家 族は不満あり関係は不良	通所事業所での交流	不明	複数の支援者があり、関 係は不安定	民間シエルトターの利用者と の交流あり	民間シエルトターの利用者と の交流あり
社会環境	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービ ス	就労移行支援	あるが利用していない公私のサービ ス	あったら利用したい制度・サービ ス
	療育日、障害年金	子育て支援	子育て支援	就労移行支援	居宅介護	-
個人因子	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	その他の特記事項
	子どもと仲良く暮らしたい 気ままな生活をしたい	不明	子どもや家族のことよりも 自分の楽しみを優先してし まう	子どもにも避けられている 兄妹と仲が悪い	過去にホームレスの人と一緒に 路上生活をjして家に帰らなかった 時期がある	過去にホームレスの人と一緒に 路上生活をjして家に帰らなかった 時期がある
本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者
参加状況	兄	民間シエルトター管理者	-	-	就労移行支援、障害者就 業・生活支援センター、相 談支援、福祉課	就労移行支援、障害者就 業・生活支援センター、相 談支援、福祉課
会議の 検討事項 ・結 果	会議開催の理由・背景					
	自宅では居場所がなく過ごしにくいことや、子との関係もうまくいかず、民間シエルトターに入られてほしいという相談があり、兄から暴力もあると相談があった。事実関係を整理し、本人、家族が安定して生活していけるよう、支援方針を検討					
	家族は本人の行動に信頼がおけないため、厳しく接するが見守る姿勢でいる。本人に家庭での居場所が作れるよう、役割を持たせ、信頼している民間シエルトター管理者の協力のもと、就労を目指し、生活改善をはかる					
	会議開催による改善点及び残された課題と展望					

表4 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 9	地域: 小信	国籍等: 日本	IDNo.2136	平成22年2月3日現在	その他
健康状態	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	外傷3	その他
	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	-	発達外来通院
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	その他
		知的障害がありこだわり行動がある	問題なし	物を回して、それを見るのが好き	人混みが苦手、偏食がある	-	-
活動	歩行	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	その他
	実行状況(している)	可能だが見守り要	衣類の着脱は一部介助	母親がおこなう	児童のためなし	-	-
参加	能力(できる)	可能だが見守り要	衣類の着脱は一部介助	児童のためお手伝い程度	児童のためなし	-	-
	実行状況(している)	養護学校小学部3年生	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	-	その他
環境因子	能力(できる)	利用している福祉用具	放課後、休日に児童デイ、日中一時、移動支援利用	ゲーム	なし	-	-
	物的環境	利用している福祉用具	それぞれに適應している	常におこなっている	特別な配慮があれば可	-	-
背景因子	物的環境	家族の支援	友人との交流・支援	スケジュール表	住居の状況	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
	人的環境	両親共に精神的に不安定	学校、児童デイでの交流あり	不明	貸賃、集合住宅	貸賃、集合住宅	ポランティア等その他の人的交流・支援
社会環境	療育B	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	本人の支援者との関係は良好	不明	不明
	(生活観)実現したい生活	療育B	あるが利用していない制度	児童デイ、日中一時、移動支援利用、言語訓練	あるが利用していない公私のサービス	あつたら利用したい制度・サービス	あつたら利用したい制度・サービス
個人因子	安心できる生活	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	その他の特記事項
	本人	家族	私的関係者	四六時中ゲームばかりしている	四六時中ゲームばかりしている	-	-
参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者
会議参加者	本人	母	-	-	-	-	養護学校、居宅介護サービス事業所、日中一時支援事業所、居宅介護事業所、相談支援事業所、療育サポートプラザ、子育て支援課、福祉課
会議の検討結果	会議開催の理由・背景		会議開催による改善点及び残された課題と展望		兄弟の生活実態に合わせた計画的な社会資源の活用と、チャイルドを中心とした母親の精神的なフォローをおこなっている。しかし、父親への病院受診の話は進んでいない。		
会議の検討結果	兄弟に関わっている様々な機関に集まっていただき、家庭の中でおこなわれている、父親からのいきすぎた行為等に対する対策や、それを踏まえた上での家庭に対する支援のあり方を確認していきたい。また兄弟に関わる支援で情報を共有し、さらにネットワークを作ることによって母親の安心感を深めてもらう機会とすること。		兄弟の生活実態に合わせた計画的な社会資源の活用と、チャイルドを中心とした母親の精神的なフォローをおこなっている。しかし、父親への病院受診の話は進んでいない。		兄弟の生活実態に合わせた計画的な社会資源の活用と、チャイルドを中心とした母親の精神的なフォローをおこなっている。しかし、父親への病院受診の話は進んでいない。		

表5 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 28	地域: 萩原	国籍等: 日本	IDNo.2137	平成22年2月17日現在
生活機能	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
	精神発達遅滞	感音性難聴	躁うつ病	-	-	精神科入院中
活動	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
		最重度知的障害	問題なし	聴覚障害あり、若干聞こえない模様	相手の口や動作はじっと見ることが理解度は不明	不明
参加	実行状況(している)	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
		可	更衣、入浴などに介助を受けている	母が行う	不明	じっとしていることはあまりなく常に動く、衣服を脱ぐ
環境因子	能力(できる)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	経験なく不明	経験なく不明	歩いて一人で外出するが安全管理は出来ない
		可	通所等の利用意欲は不明だが、利用は可能	広告のチラシを眺める	不明	高校卒業後は自宅を過ごすのみ
環境因子	物的環境	絵カード	-	不明	不明	単独外出はするが、大きな問題行動はない
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	その他の特筆すべき物的環境
環境因子	人的環境	母が本人の支援を全面的に行っている、弟があるが引きこもりのよう	不明	不明	支援者の受け入れは拒否なく良好	-
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私サービスの	あるが利用していない公私サービスの	あったら利用したい制度・サービス
環境因子	社会環境	療育A、身体4級、障害基礎年金2級	-	現在精神科入院中	障害福祉サービス	-
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
会議参加者	個人因子	不明	不明	全裸で自慰行為をするが誘導により衣類の着脱が可能	両親の関わりが希薄	-
		本人	家族	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
会議の検討事項・結果	参加状況	母	私的關係者	精神科PSW	-	知的通所授産、知的入所更生、短期入所、相談支援(3)、福祉課
		会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望	-	-	-
結果		知的障害、聴覚障害、精神疾患と障害が重複しており、精神科病院に入院中。入院生活は本人に適切ではなく、退院を考えたが、母の不安が強いため、本人の支援と母の不安軽減のために、退院後の生活について支援方針を検討				

表6 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 3	地域: 宮西	国籍等: 日本	外傷1	外傷2	その他
健康状態	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他	その他
	筋ジストロフィー	精神発達遅滞	-	-	-	小児科通院	-
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	その他
		重度知的障害	体幹機能障害	問題なし	-	-	-
活動	実行状況(している)	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	その他
		単独で可能だがやや不安	食事は見守り	母親・ヘルパーが行う	児童のためなし	-	-
参加	実行状況(している)	単独で可能だが見守り要	排泄・更衣等は支援が必要	児童のため行う状態ではない	児童のため不明	-	-
		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	その他
環境因子	参加	未就学	児童デイサービス	不明	不明	-	-
		可	可	不明	不明	-	-
背景因子	物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	その他の特筆すべき物的環境
		-	-	-	賃貸住宅	-	-
環境因子	人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	-
		母親も同疾患 母親の専家で月の半分を過す	児童デイサービスで交流	不明	複数の支援者と交流があり関係は良好	複数の支援者と交流があり関係は良好	-
社会環境	利用している制度	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	-
		身体1級、療育A	なし	児童デイサービス 居宅介護支援	-	-	-
個人因子	(生活観)実現したい生活	不明	不明	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	-
		本人	家族	私的関係者	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者
会議参加者	参加状況	-	-	MSW・訪問看護Ns	保健所	居宅介護事業所・児童デイ・子育て支援課・福祉課 相談支援	-
会議の検討事項	会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望					
結果	医療機関や福祉サービス事業所など多くの関係者が関わっている家庭。母親自身も本人と同疾患、知的にやや遅れがあり各関係機関との調整が困難なため、事業所間で情報交換を行いたい。	本人の支援については福祉サービスを利用することにより安定してきているが、母親が精神的に不安定になっていること、父親が失業中であることなど、家庭基盤が脆弱である。母親の精神面での支援は保健所、父親の就労支援、自己破産、母子のヘルパー調整は相談支援で担当する。					

表7 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 18	地域: 北方	国籍等: 日本	IDNo.2139	平成22年2月22日現在
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他	その他
	精神発達遅滞	脳梗塞	左上肢機能全廃	左下肢の著しい障害	脳外科へ通院	その他
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	その他
	中度知的障害	脳梗塞の後遺症により左半身に不自由あり	問題なし	-	-	-
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	その他
	単身で可だが段差などで転倒することもある	入浴は介助を受けている	母が行う	自宅にて過ごすのみで特に何も行っていない	脳梗塞により出来ないこと	脳梗塞により出来ないこと
参加	見守りは必要だが単身で可能	移動や食事、更衣などはほぼ自立	経験なく不明	軽作業は可能	脳梗塞の後遺症により活動制限がある	その他
	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	その他
環境因子	養護学校は不登校	-	お城を見ること、ゲームや音楽	不明	不明	不明
	途中からいく事が出来なくなった	訓練系の事業所の利用など可能と思われる	自発的に行える	不明	不明	不明
環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	自宅はバリアフリーではない
	-	-	-	一戸建て(賃貸)	ポランテア等その他の人的交流・支援	い
環境因子	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	関係者との交流・支援	関係者との交流・支援
	母子家庭で、母は知的障害疑い、双子の姉も知的障害あり、父は別居だが生活不安定	不明	不明	不明	支援者の受け入れは良好	あ
社会環境	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あ	あ
	身体2級、療育A、生活保護	なし	なし	障害福祉サービス	あ	あ
個人因子	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	その他の特記事項
	卒業後は福祉サービスをj利用して生活していく	不明	不登校の期間が長く外に出るのがおっくうになっていく	母子家庭 両親ともに知的障害があり、十分な配慮は困難	-	-
参加状況	本人	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者
	参加	-	-	-	居室介護、就労継続B、就業・生活支援センター、養護学校、相談支援(3)、福祉課(生活保護、障害)	居室介護、就労継続B、就業・生活支援センター、養護学校、相談支援(3)、福祉課(生活保護、障害)
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景					
会議の検討事項・結果	<p>養護学校高等部在学中だが不登校、先生のアロウを受けているが、卒業に伴い支援も出来なくなる。家庭には両親、姉ともにそれぞれ障害や問題を抱えており、家族も支援が必要であるが、本人の今後の支援や家族への支援体制などを関係者で検討</p> <p>本人は日中事業所へ通えるよう希望を元に支援するため見学等を進めていき、好きな活動が行えるよう、障害福祉サービスで移動支援などを利用する。姉については就労支援を関係者で行い、父は生活費に困難を感じ生活不安定な様子であるが実態がつかぬため、関係者で保護でき次第生活保護の相談へつなぐ。</p>					

表8 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 25	地域: 西成	国籍等: 日本	平成22年2月25日現在	IDNo.2140
健康状態	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
精神発達遅滞	自閉症					精神科通院
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能		視覚・聴覚	その他	その他
	最重度知的障害あり、こだわりが強い	問題なし	問題なし	問題なし		
生活機能	歩行	ADL		家事	職業能力	その他
	実行状況(している)	可	可	家族が行う	授産施設にて作業を行う	
	能力(できる)	可	可	できない	常に見守りが必要	
	実行状況(している)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他
参加	能力(できる)	不可	知的障害者通所授産施設	不明	不可	
	利用している福祉用具	可	可	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
環境因子	物的環境				一戸建て	
	家族の支援	家族は本人と2人で過ごすことに不安。父親は週1日は自宅で本人と過ごしている。	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
	利用している制度	療育A、障害基礎年金1級	授産施設で他利用者と交流	不可	通所施設職員・ヘルパーの支援あり。こだわりが強い	
	利用している生活(生活観)実現したい生活	不明	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス
個人因子	本人	家族	(価値観)大事にしていること	知的通所授産施設 身体介護 行動援護 日中一時支援 短期入所	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
	母	母	不明	水を触ること、服装にこだわりがある。服をわざと濡らす	母親に対する他害や物を壊すなどの行動	
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景		会議開催による改善点及び残された課題と展望			
会議の検討事項・結果	自閉症によりこだわりが多く、別居していた弟が同居するようになり自宅での生活が不安定になっている。母親に対する暴力や物を破壊させるなどの行動が多くなっている。安定した生活を送るための方法や、母親の負担軽減のために福祉サービス利用を検討したい。		起床後から授産施設が送迎までの時間にヘルパーを利用し、母親と2人きりになる時間を減少させる。起床から更衣までの行動をパターン化、自宅内の気になる物を隠す、撤去するなどして本人のこだわりを防ぐ。しかし、自宅にて母親と2人過ごしている際に不安定となり、暴力行為につながっている。			

表9 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男	年齢: 43	地域: 富士	国籍等: 日本	IDNo.2141	平成22年2月26日現在
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
アスペルガー一症候群	適応障害	軽度精神発達遅滞	-	-	精神科通院
心身機能・身体構造	精神機能 家族関係が主な原因で精神的に不安定。対人コミュニケーション困難。知的障害あり	運動機能 問題なし	視覚・聴覚 問題なし	その他 幻聴がフラッシュバックか不明だが人の声が聞こえることがある。	その他
活動	単独で可能。	ADL 自立。	家事 ほとんど母親が行い、本人は一部(洗たく物を取りこむ等)最低限のことはできるが、食事を作ることが苦手。	職業能力 無職。福祉的就労利用なし。	その他 普通車運転免許あり車を運転している。
参加	一般就労・就学 不定期で求職活動中	福祉施設等の利用 作業工賃が安いことを理由に利用していない。	趣味等 車・バイク関連のこと	地域活動 プロテスタント教会の信者と交流あり。	その他
環境	可能	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況 持家、一戸建て、改装して数年。	その他の特筆すべき物的環境
環境因子	家族の支援 高齢の母親と同居。近くに兄弟夫婦が住んでいるが、本人が反発。	友人との交流・支援 在職中に知り合った友人	近隣との交流・支援 近所とはつかずはなれずである。	関係者との交流・支援 精神科医師、PSW、就業・生活支援センター	ボランティア等その他の人的交流・支援 不明
社会環境	精神2級 障害厚生年金2級	あるが利用していない制度 就労移行支援事業所、地域活動支援事業所、精神科デイケア	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス 通所系サービス 作業工賃が安いという理由	あったら利用したい制度・サービス ある程度の金額が受給できる職業訓練
個人因子	(生活観)実現したい生活 親兄弟と衝突せず、職に就き経済的に安定した生活をした	家族 母親	独自の生活習慣等 親兄弟の言動、行為に過剰反応する。	未解決の生活上の問題 どこにも所属しておらず、在宅生活を送っている。	その他の特記事項
本人	本人	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
参加状況	母親	-	精神科PSW	-	福祉関係者 包括支援センター、就業・生活支援センター、高年福祉課、福祉課
会議参加者	母親	-	精神科PSW	-	福祉関係者 包括支援センター、就業・生活支援センター、高年福祉課、福祉課
会議の検討事項・結果	障害年金裁定請求中で失業手当の受給期間も終わりに近づき、本人の経済的な不安感が強かった。毎日のように深夜まで同居の母親へ包丁や精神科の薬を多量に持ち出し死んでやると訴えていた。兄とも取っ組み合いになり警察が介入する事態となっていた。概要を把握し、この世帯の支援方針を定め必要時に即対応できるようにすることを目的とした。	会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望 本人を就労系の障害福祉サービスに繋げることに母親の同意が得られたが、工賃の低さに母親の疑問が湧き、利用に乗り気にならなかった本人も考え直し、在宅生活を続けている。障害年金が受給できるようになり精神的にもかなり安定しているもの親兄弟との関係は改善されていない。病院、就業・生活支援センターで本人の日常生活上の相談に乗り、本人に再び就労したいという意欲が湧いてきた時に就労支援することとした。	会議開催による改善点及び残された課題と展望 本人を就労系の障害福祉サービスに繋げることに母親の同意が得られたが、工賃の低さに母親の疑問が湧き、利用に乗り気にならなかった本人も考え直し、在宅生活を続けている。障害年金が受給できるようになり精神的にもかなり安定しているもの親兄弟との関係は改善されていない。病院、就業・生活支援センターで本人の日常生活上の相談に乗り、本人に再び就労したいという意欲が湧いてきた時に就労支援することとした。	会議開催による改善点及び残された課題と展望 本人を就労系の障害福祉サービスに繋げることに母親の同意が得られたが、工賃の低さに母親の疑問が湧き、利用に乗り気にならなかった本人も考え直し、在宅生活を続けている。障害年金が受給できるようになり精神的にもかなり安定しているもの親兄弟との関係は改善されていない。病院、就業・生活支援センターで本人の日常生活上の相談に乗り、本人に再び就労したいという意欲が湧いてきた時に就労支援することとした。

表10 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:女	年齢:48	地域:向山	国籍等:日本	IDNo.2142
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	平成22年2月22日現在
統合失調症	精神発達遅滞	不明	不明	その他
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	精神科通院
	軽度知的障害	不明	不明	その他
	歩行	ADL	家事	-
活動	不明	不明	不明	その他
能力(できる)	不明	不明	不明	-
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	その他
能力(できない)	就労していない	生活介護(2カ月～半年に1回程度利用)	不明	-
	不明	お金がなく、母が一人にしないと言ったため足が煩わしい	不明	-
物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	その他の特筆すべき物的環境
	不明	不明	不明	不明
環境因子	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援
	母親(要介護、意欲低下)、弟(生保世帯と同居、母から娯楽費を無心する)	不明	不明	不明
社会環境	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あつたら利用したい制度・サービス
	療育C、精神2級、生活保護	不明	生活介護、精神科訪問看護、居宅介護	不明
個人因子	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題
	不明	不明	不明	不明
本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者
参加状況	-	-	精神科訪問看護PSW	福祉関係者
会議参加者	-	-	-	日常生活自立支援事業、居宅介護支援事業所、ケアマネ、包括支援、福祉課障害G、生保G、相談支援
会議の極小結果	会議開催の理由・背景 母と本人の生活保護世帯に、失業中の弟が転がり込んで同居し二人分の保護費で生活している。生活費としてだけでなく、保護費の一部を遊興費として弟に渡してしまうので、困っていると本人から相談があった。本人と母を経済的に守っていくため、今後日常生活自立支援事業の利用を検討していきたいが、本人の支援をする中で母が孤立しないように母の支援者にも状況を理解してもらおうために関係者のみのケア会議を開催した。			
会議の極大結果	会議開催による改善点及び残された課題と展望 弟にお金を渡してしまうのは、母、しかし、お金が本人に全部入ることで本人が弟の精神的に頼らないようにしたい。保護費が振り込まれるのはとめてあるので、本人が窓口を受け取りに来たら支給するということになる。(要ヘルパー付き添い)一部は母に渡してその中から弟がせびりにきてもらっても少しは渡せるようにしておくこととなる。保護CWより、弟に生活保護のお金を渡してしまうのは市としては難しいと、母に伝えてもらう。本人にも弟			

表11 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別:女		年齢:45	地域:貴船	国籍等:日本	IDNo.2143	平成22年2月1日現在
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他	精神科通院中、大量服薬することあり
統合失調症	-	-	-	-	-	-
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	その他
	対人関係で不安定になりやすい	以前は車いす利用していたが現在は問題なし	問題なし	-	-	-
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	同居男性や入院中の家族の介護を行うなどしている
	可	自立	ヘルパーの支援一部あり	-	-	同居男性や入院中の家族の介護を行うなどしている
	可	自立	ほぼ自力で行える	就業意欲はあまりない	-	同居男性や入院中の家族の介護を行うなど出来る
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	その他
	-	-	-	不明	不明	-
	過去にはヘルパーを行っていたこともありますが現在は困難	希望があれば可能	不明	不明	不明	-
	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
物的環境	-	-	-	賃貸住宅	-	-
人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
	同居男性は身体障害あり。娘は別居で積極的ではないが関係あり	不明	不明	不明	不明	不明
社会環境	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	居宅介護	居宅介護	あつたら利用したい制度・サービス
	身体3級	-	-	-	-	-
個人因子	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	その他の特記事項
	不明	不明	不明	-	-	-
本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者
参加状況	-	-	精神科PSW	保健所	居宅介護(2)、社協、相談支援(2)、福祉課	居宅介護(2)、社協、相談支援(2)、福祉課
会議参加者	会議開催の理由・背景					
会議の検討事項・結果	同居男性との2人暮らしであり、ヘルパー利用して生活しているが、同居男性に對するヘルパー支援の内容が無理な行為を要求したり、ヘルパーの選り好みがあるなどで対応が困難。精神的に不安定で、さまざまな相談機関に相談しており、関係者が振り回されているため、支援者が情報共有し対応を統一する。					
	相談先として社協を担当として、本人の支援者が複数あることで本人や支援者が混乱しないように調整を行う。同居男性とは共依存的な関係になっており、精神的に不安定になり問題行動を起こすため、枠組みをもって関係者で対応する。					

表12 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 10	地域: 向山	国籍等: 日本	平成22年3月4日現在	ID No. 2144
生活機能	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	精神科通院
活動	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
	実行状況(している)	重度知的障害あり、こだわり行動があり	問題なし	特定の物、音に過敏に反応	特定の衣類を好む	-
参加	能力(できる)	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
	実行状況(している)	可能だが見守りが必要	衣類の着脱は一部介助	祖母、母親が行う	児童のためなし	-
環境因子	能力(できる)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	児童のためなし	-
	実行状況(している)	養護学校小学部4年生	放課後、休日に児童デイ、日中一時、移動支援利用	ゲーム	地域活動	その他
背景因子	物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
	人的環境	スケジュール表	コミュニケーションツール	-	持ち家、一戸建て	-
社会環境	療育A	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
	個人因子	親が精神的に不安定	学校。児童デイでの交流	不明	本人の支援者との関係は良好	親戚との交流あり
会議参加者	本人	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス
	母	療育A	療育A	児童デイ、移動支援	-	-
会議の検討事項・結果	本人	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
	母	穏やかな生活	不明	お風呂に長く入る	生活習慣が不安定	-
会議開催の理由・背景		家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
会議開催の理由・背景		母	-	-	-	養護学校、児童デイサービス、居宅介護、療育サポーターラザ、福祉課
会議の検討事項・結果		<p>現在のご本人さんの暮らしを支えるために、複数の事業所が関わっている。毎日の暮らしが穏やかに安定して過ごせるよう、障害特性に合わせた支援の方向性の確認を行っていく。また家族状況にあわせた支援を適切に提供できるようネットワークの構築を深める場としていく</p> <p>ご本人さんの障害特性を深めることはできなかったが、その特性に合わせた配慮があまりされていない。今後はポイントを絞って具体的な支援方法を家族を含めた関係者一同で話し合っていく必要がある。</p>				

表13 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男	年齢: 3	地域: 宮西	国籍等: 日本	IDNo.2145	平成22年3月17日現在
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
精神発達遅滞(重心)	脳原性運動発達遅滞	てんかん	-	-	環境変わると発作が起こりやすい 小児科通院
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
	最重度知的障害、発達の遅れが全体的にあり	体幹機能障害によりはいはいで移動	問題なし	-	風邪をひきやすく、喘息あり
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
実行状況(している)	はいはいで移動	食事、排泄など練習中	本人は足でもあり行えな い、母が行う	児童のためなし	何でも口に入れ確かめる ため異食の危険あり
能力(できる)	訓練で獲得可能	ほぼ全介助	不可	児童のためなし	何でも口に入れ確かめる ため異食の危険あり
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他
実行状況(している)	未就学	肢体訓練施設、短期入所	不明	不明	-
能力(できる)	未就学	母の都合で、利用の仕方は不定期、不適切	不明	不明	-
物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
人的環境	車いす	歩行器、短下肢装具	-	集合住宅(賃貸アパート)	-
社会環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
	母子家庭で母就労のため児 の養育が不十分、父の協力 あり	母子通園の先輩ママ自宅へ母に 連れられ夜間遊びに行く	不明	福祉サービス支援者との 交流あり	-
	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス
個人因子	身体2級、療育A	(生活観)実現したい生活	短期入所、肢体訓練施設	-	-
本人	母とともに安定した生活	不明	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
家族	家族	私的関係者	医療関係者	母親の養育不十分で生活 リズムの乱れがある	-
本人	-	-	肢体訓練施設Ns	保健関係者	福祉関係者
参加状況	-	-	肢体訓練施設Ns	-	短期入所、母子通園、肢体訓練 施設、児童相談センター、相談支 援(2)、子育て支援課、福祉課
会議の 検討事 項・結 果	会議開催の理由・背景				
	離婚してから母が収入を得るために就労し、本児を短期入所で預けたままであつたり養育 が不十分で生活も乱れていたが、本児の歩行獲得のために肢体不自由児訓練施設へ入所 することとなった。施設入所により母の生活改善され、退所後は安定した生活が送れるよう になることを目的に、支援者で入所前に支援方針の確認、共有を行う				
	会議開催による改善点及び残された課題と展望				
	施設入所までの間、母子を支える相談体制を整えておき、施設入所となつてから、 母子関係が途切れないよう関係者で支援。退所前には母を交えての関係会議を 行い、適切な生活が送れるよう支援する				

表14 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 12	地域: 奥町	国籍等: 日本	平成22年3月18日現在	IDNo.2146
健康状態	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	精神科通院
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
		最重度知的障害あり、こだわり行動がある	問題なし	特定の状況による視覚の過敏さと、特定の音が苦手	人混みが苦手	-
活動	実行状況(している)	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
		可能だが見守りが必要	衣類の着脱は一部介助	母親がおこなう	児童のためなし	-
参加	実行状況(している)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	児童のためなし	-
		養護学校小学部6年生	放課後、休日に児童デイ、日中一時、移動支援利用	-	地域活動	その他
環境因子	能力(できる)	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	-	特別な配慮があれば可	-
		視覚支援ツール	あるが利用していない福祉用具	スケジュール表	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
背景因子	物的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
		父親が単身赴任中、兄が受験生で母親以外の支援は希薄	学校、児童デイでの交流はあり	不明	本人の支援者との関係は良好	不明
社会環境	療育A	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あつたら利用したい制度・サービス
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	児童デイ、日中一時、移動支援	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
個人因子	安定した生活	不明	不明	人を押ししてしまう	人を押ししてしまう	-
		本人	家族	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
会議参加者	本人	母	-	-	-	養護学校、児童デイサービス事業所、日中一時支援事業所、居宅介護事業所、療育サポートプラザ、福祉課
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景 前回の個別支援会議開催以降の各機関での様子の確認と、問題とされている行動の分析。また、4月から中学部に進学するにあたり、従来の児童デイサービスの利用形態を変えていく必要があり、その確認及びプランニングの検討。					
会議参加者	会議開催による改善点及び残された課題と展望 各機関でのパニックに時の対応の統一化。それに伴って、全体的に生活が安定してきたこと。					